Proofpoint導入事例
株式会社プロカラーラボ様

proofpoint.

Proofpointが持つ「先進性」を評価

クラウドへの取り組みと方向性に共感

株式会社プロカラーラボ

メールセキュリティ強化を図り、スパム対策にクラウド型のProofpoint Email Protection SaaSを、未知の標的型攻撃対策にクラウド型サンドボックスProofpoint Targeted Attack Protection（以下TAP）を導入。

課題

メールサーバーに標準装備のアンチウイルス/アンチスパムソリューションでは巧妙化する最新の脅威を含むメールのすり抜けが見つかるようになり、社内で問題となりかけていた。
導入に際しては、管理負荷を軽減できるクラウドサービスが良いと考えていた。

ソリューション

- スパム/ウイルス対策にProofpoint Email Protection SaaS、標的型攻撃対策にはProofpoint Targeted Attack Protection（TAP）を提案
- 2週間の評価で導入効果を検証

導入効果

- 評価期間中から検知精度の高さを実感
- エンドユーザーに届くスパムメールが激減
- 脅威がすり抜けた後からもメールを特定できることは大きなメリット
- MLX（自動機械学習技術）で検知精度が大幅に向上
- レポート機能が充実

株式会社プロカラーラボ（以下プロカラーラボ）は、写真館やフォトスタジオなどのプロフェッショナルの写真家向けのデジタル画像処理・プリントを行う会社で、創業50年を迎えた。デジタル化の波にいち早く対応し、今も新しいWebサービスを提供するなど、新技術への対応に力を入れている。

ITシステムの開発・管理をされている西宮本社の平 恵介氏、佐藤 俊彦氏にお話を伺った。

メールサーバーをアウトソース

プロカラーラボは業務にインターネットメールを導入した当初から、社内にメールサーバーを置かずホスティングサービスを採用した経緯があった。その後、スパムやウイルスの脅威が叫ばれるようになったが、アウトソースサービスに付帯するアンチウイルス/アンチスパム機能を利用していた。

佐藤氏が川崎のイーストラボから本社のシステム担当として異動してきたのは2016年。当時、スパムやウイルス付きメールが高度化・巧妙化し、すり抜けが起こるようになってきたことが社内的にも問題になりかけていた。そこで佐藤氏は、新しいアンチスパム/アンチウイルスソリューションの検討を開始した。

Proofpointの「先進性」とは

様々なセキュリティ製品のセミナーなどに参加していた佐藤氏だが、Proofpointが開いたセミナーに参加したのがきっかけでProofpoint製品に興味を持ったとのこと。

「まず、Proofpointのソリューションが、完全なクラウドサービスだという点が新しいと思いました。当時すでにクラウドサービスを謳うソリューションはいくつかありましたが、Proofpointのサービスはクラウド上で完結しており、さらに他社のサービスとの連携を視野に入れるなど、これからの新しい方向性を感じさせるものでした。」と佐藤氏。「クラウド上での連携はこれから一般化するだろうと思いましたし、今後の拡充にも期待しています。」

さらに佐藤氏は、「私の選考基準として、他社と比べて『先進的な尖った部分』が必要と考えています。Proofpointのソリューションにはそれがあると感じ、目指している方向も共感できる。一言で言うと、『ピントが合っているな』という印象を持ったのです。」と続ける。

その後、いくつかのメールセキュリティソリューションを調べましたが、メールに特化しているサービスとしてはProofpointが一番と考えたとのこと。「プロカラーラボのシステムを担当する人的リソースは限られています。運用負担を減らすためにも、クラウドへの移行は必須と考えました。」（佐藤氏）

Proofpointを評価

そこでProofpointに連絡をとり、2週間の評価を行うこととなった。利用中のメールサーバーの前段にProofpointを置き、どれくらい検知率が上がるかの検証を行った。

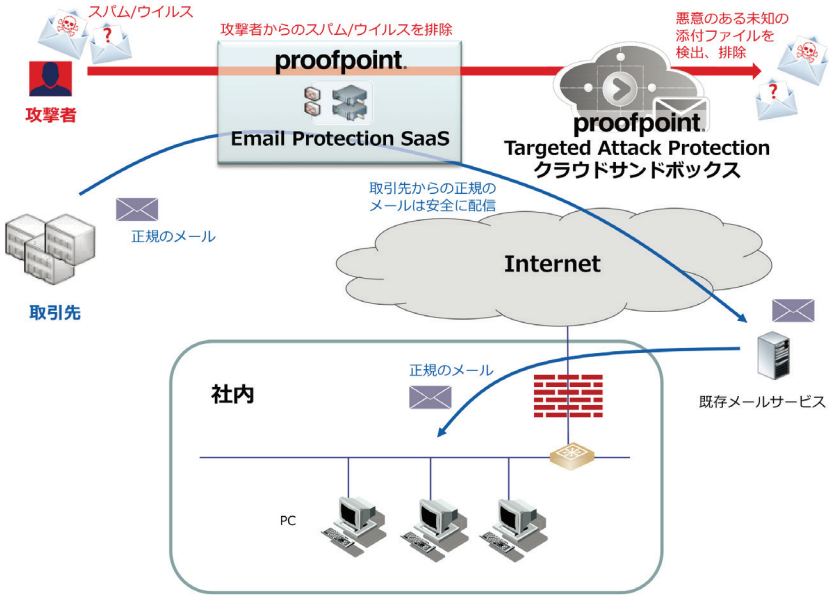
佐藤氏は「評価段階ということで、ウイルス/スパムを検知しても検疫/削除せずに、警告を付けてそのまま流す設定にしていたのです。ところが毎日ものすごい量のメールが検知されるので、それがそのままユーザーに流れていくのをただ見ているのは、気が気ではありませんでした。」と笑う。警告文のおかげか、実際にそれを開いたユーザーはいなかったということだが、日々不安を抱えていたそうだ。

株式会社プロカラーラボ 平 恵介氏、佐藤 俊彦氏

この評価の結果をレポートにまとめ、経営幹部の承認を得たのだが、平氏は「この頃は、受信メール全体の中でのスパムメールの比率が増えていた時期で、経営幹部も『最近多くなってきた』と感じており、問題意識を共有できていたことも、導入の判断にプラスに働いたと思います。」と、当時を振り返る。また佐藤氏からは、「Proofpointのレポート機能は直感的で非常にわかりやすく、経営幹部への説明に有効でした。」とのご指摘もいただいた。

配信後の脅威特定（TAPダッシュボードによる可視化）とMLXの優秀さが大きなメリット

こうして本番環境に移行したが、実際には検証環境をそのまま移行させるだけなので、移行作業はトラブルも無くスムースに完了した。検知精度の高さは評価の時点でわかっていたことだが、移行後に感じたProofpointのメリットについて佐藤氏は、「Proofpoint製品を導入して、実感しているメリットが二つあります。ひとつは、すり抜けてしまった脅威をあとから特定（TAPダッシュボードによる可視化）できる点、そしてMLX（自動機械学習技術）の優秀さです。」と言う。



株式会社プロカラーラボ

会社名	株式会社プロカラーラボ
設立	昭和41年
資本金	9800万円
社員数	150名
事業所	西宮ラボ（本社）、京都ラボ、イーストラボ、麻布ラボ、九州ラボ、東陽町ラボ
事業内容	プロ用デジタル画像処理・プリント（ブライダルフォト・ポートレイト・デザインアルバム等）
URL	http://www.procolorlab.co.jp/

その理由は、「今の時代、どれだけ高度な対策を施しても、脅威を最初から100%防ぐことはできません。最初の数通はどうしてもすり抜けてしまうことは覚悟しなければなりません。そのような場合でも、誰宛のどのメールが感染していたかを後から特定できるため、受信者に注意を促すことができ、万一の際の対策を行う対象もすぐに絞り込むことができますから、管理者としては安心していられます。」とのこと。

また、「もうひとつは、MLXを使った機械学習です。前述のようなすり抜けやメールの誤検知があった場合に、管理GUIからMLXにフィードバックを行うことで、どんどん精度を高めていくことができます。実際に使ってみて、フィードバックすればするほど精度が上がり、その学習効果の高さに驚いています。」とも。ProofpointのMLXは、本来お客様からのフィードバックが無くても精度を上げていく仕組みになっているが、フィードバックがあればさらに精度を上げることができる。

平氏も、「導入後、エンドユーザーにスパムが届くことは確実に減っています。また、エンドユーザーも学習に協力してくれたことで、誤検知もほとんど無くなりました。」と続ける。

今後は他社連携とEDRを検討

とにかく勉強熱心な佐藤氏。今後についても「今後、クラウド上でベンダーの垣根を越えたナレッジの統合が進んでいくと思います。Proofpointの特徴である他社連携の機能を活かしていきたいと考えています。それと感染後対策としてのEDR（Endpoint Detection and Response）ですね。また、セキュリティの継続性のためにログの集約と可視化、効率化を考えていかないといけないと思っています。」と、興味は尽きない。

Proofpointとしても、新たなご提案を続け、プロカラーラボを支援していく。

Proofpoint について

Proofpoint Inc. (NASDAQ:PFPT) は、先進的脅威およびコンプライアンス上のリスクから人の働き方と組織を守る、次世代のサイバーセキュリティ企業です。Proofpointはメール、モバイルアプリ、ソーシャルメディアなどを使った先進的攻撃からユーザーを守るサイバーセキュリティの専門家を助け、重要な情報を保護し、何か起こった際には迅速に対応できるように、チームに正しいインテリジェンスを提供します。Proofpointのソリューションは現代のモバイルおよびソーシャル化されたIT環境に対応し、クラウドとビッグデータベースの解析プラットフォームを活用して最新の先進的脅威に対抗します。フォーチュン100企業のうち50社を含むあらゆるサイズの組織が、Proofpointのソリューションを利用しています。

© Proofpoint, Inc. 2018 Proofpointは米国及びその他の国々におけるProofpoint, Inc.の商標です。本カタログに記載されている会社名、製品名、サービス名は、一般に各社の登録商標または商標です。本カタログの記載内容、製品及びサービスの仕様は予告なく変更されるされることがあります。 Mar2018

proofpoint. proofpoint.com/jp